

今月の断酒表彰

- ☆ K・Yさん 南千里支部 断酒三カ月
- ☆ A・Dさん 吹田支部 断酒六年
- ☆ T・Hさん 南千里支部 断酒十五年
- ☆ T・Tさん 吹田支部 断酒二十一年
- ☆ D・Sさん 南千里支部 断酒二十一年

断酒表彰おめでとうございます。ますますのご活躍を期待いたします。

＜平成31年4月1日入会＞

- ☆ F・Tさん 吹田支部
- 新しい仲間です。よろしくお願ひします

断酒に思う (96)

断酒会に入会して良かった 吹田支部 Y・H

2014年(平成26年)10月23日、私は離婚されたくない、ただそれだけで新阿武山病院に入院いたしました。当日嫁さんと娘が付き添い、「お父さん最後のチャンスだよ」と言われました。私は兎に角今の状況を抜きたい一心で入院しました。

本気で酒を止める決心はまだまだ付いていませんでした。ただ入院して、色々アルコール依存症の勉強をして、また断酒会の例会に出席して、自分も、もしかして本当にお酒を止められるかもしれないと、ほんの希望を覚えたことを思い出します。

あれから4年半、今まで断酒会や、新阿武山の仲間のお陰で、本日まで断酒が出来ていることに、驚きと、感謝しております。

新阿武山病院を退院して一年間は、家族や、仕事仲間の理解のお陰で、毎日例会廻りいたしました。その時に聞いた、本人の体験談には、本当に感激いたしました。

ただ、私が一番心に響き、また断酒継続出来ているのは、各例会で聴いた家族会の皆さんのお話でした。自分も、家族には迷惑をかけた自覚は有りましたが、家族会の皆さんのお話を聞くたびに、私が自覚していた何万倍もの迷惑を私は家族や、親戚、仕事関係の人に掛けていたことを思い知り、震えが止まりませんでした。

本日は3月2日明日は、桃の節句お雛祭りです。私の家族も明日は娘夫婦が孫を連れて自宅に長男夫婦と雛祭りのお祝いを致します。朝から嫁さんが明日のちらし寿司の用意や、食事会の用意の為の食材の手配のためにメモを取りながら明日私とどこのスーパーに何時に行こうかと、楽しく話しをしながら思い出話に花を咲かしています。

平成31年4月1日発行 No.194

編集・発行 事務局・広報部

<http://suitashi-danshukai.net>



こんな幸せな時間を過ごすことが出来るのも、ただ断酒が出来ているからだ、心の底から思います。もう二度とあの言葉にも出来ない地獄のような時に戻りたくない、今の幸せを離したくない、私はその為に断酒継続を誓う毎日です。

本当に断酒会に入会して良かった、心から思える毎日です。

今月の「指針と規範」】

断酒会規範 五

断酒会員はあらゆる条件を超えて平等であり、支配者はいない

酒害者の断酒を可能にする理由を一言で、と答えを求められると、「断酒会が実践第一主義の集団だから」と説明するしかない。

万事合理主義が幅を利かしている現在、断酒例会にひたすら出席して、今日一日、今日一日と断酒の日を積み重ねているわれわれの断酒法は、あまりスマートではないかもしれない。

時間と労力を使ってあちらこちらの例会に出席しなくても、アルコール依存症の病識を徹底的に頭にたたき込み、自宅で心静かに自らを内観すれば、あるいは酒を飲まなくなるかもしれない、と思うこともあるだろう。しかし、そうした形の断酒を目指して成功した人はいない。

やはり、酒害者が酒を断ち、それを継続していくためには、からだを使って例会に出席し、足を使って酒害相談に駆けめぐり、そうした行動の中で酒害者同士が信頼を深め、自分を知る努力をするしかない。

であるとしても、ぼう大な時間と労力を要する苛酷ともいえる努力を、どうしてわれわれは進んで行っているのだろうか。それは、例会が魅力に溢れているからである。われわれを引きつけて止まないからである。

断酒会は企業や組合のような縦組織を持っているが、われわれにとって一番大切な例会に関しては、組織として機能するのは例会場の設営までである。

例会の中身は、役職や断酒歴に関係なく平等な立場で参加したわれわれがつくる。縦組織とはまるで関係のない横一線の形で進められる。

会長や支部長が参加者に訓戒を垂れるわけではない。断酒歴の長い会員が新しい会員に酒のやめ方を教えるわけでもない。司会者が会員の発表に論評を加えるわけでは勿論ない。われわれはひたすら自分の酒害体験と内面を語り、聞く。そこには感動と安らぎがある。例会の中に広い海のような自浄力が生まれる。

断酒会が自由、平等を尊重する組織であることを

みんなの広場

ヤン坊・断坊の読後談議

- ヤン坊「今日はどんな映画を取り上げるの？」
断坊「野村萬斎『七つの会議』は世相への皮肉が効いててよかったけど、今日は本の感想だよ」
ヤ「エーッ。何を讀んだの？」
断「美達大和著『人を殺すとはどういうことか』」
ヤ「何が良かったの？」
断「裁判が始まってから弁護士・検事とのやりとりで突然、被害者の無念、遺族の怒りや悲しみに気づいてゆく心の軌跡を綴っている」
ヤ「暗い、悲しい話？」
断「そうだけど、ここには死（絶望）と再生（希望）があるんだ。こんな、ある種真面目な無期囚がいるんだと感嘆するよ。彼は刑務所で初めて対等な人間関係に気づく。それまではいつも自分が上の関係。勉強も喧嘩もいつも一番。在日一世の叩き上げ、成金の父親の暴力支配が体に染みついている。」
ヤ「断酒会と何か関係があるの？」
断「美達氏の殺人（死）と罪の意識・悔悛（再生）は僕らのアルコール依存症まっしぐらの時代（絶望）と、断酒・回復の時間（希望または平安）と通底しないかな」
ヤ「囚人の反省や悔悛と言ったって、表面的では？」
断「それがそうだと思うせない美達氏の半端じゃない知性と教養があるんだ。ボキャブラリが豊富で、時々辞書を引いたよ。『検察の論告中に自分の行為が映像化され、雷に打たれたような衝撃を受け、相手の恐怖や苦痛が伝わり、自分の冷酷さ、無慈悲さを知り、自己嫌悪が起き、、、』とあるよ」
ヤ「ほかに断酒会で参考になることがあるの？」
断「美達氏は刑務所の中で初めて自分と父親の関係を客観的に見つめ始めたんだ。成長の過程に必ず通過すべき反抗期を経験していない。（反撃を考えたこともあると書いているが）これはアルコールではないにしても機能不全家庭に育ったACアダルトチルドレンの話だともいえる。」
ヤ「新天皇即位で恩赦となれば美達氏は退所するかな」
断「さあ、なんとも。いずれにしても彼の内面の成長や深化は今後も続くだろう」

(吹田支部 O・T)

一番わかり易く説明できるのがこの例会である。三十年断酒している会員と、昨日まで酒を飲んでいた会員の間には何の差別もない。それぞれが自分を自由に表現するだけである。発表内容についても自分自身のことだから、誰にも指示されず、誰にも気がねすることはない。その日のテーマがあったとしても、特にこだわることはない。今、一番話したいことを話すだけである。

例会の二時間という時間帯も、参加者全員に平等に配分される。司会者の唯一の役割は、その時間の公平な配分ぐらいのことである。ただ、自己表現のよくできない新入会員が、焦ってつまったり、本心とは逆の方向に走り出したときには、彼を落ち着かす言葉をかければよい。現在悩み苦しんでいる会員が、苦痛を綿々と訴えているときは、時間が少々オーバーしても許してやったらよい。

独特の断酒論を押しつける会員、お説教ばかりする会員、ひいては例会そのものを取り仕切ろうとする会員。そうした指示者や支配者のいない例会は、自分を率直に語れ、人の話を謙虚に聞くことができ収穫が多い。心身の疲れがとれるので、少々疲れていても欠席することはない。

われわれは入会以来、どんな差別も受けなかった。古い会員は新しい会員に比べると確かに断酒歴は長いのだが、断酒会は断酒歴が長いからといって特別扱いをしなかった。なぜなら、両者ともアルコール依存症という同じ病気を持っており、この病気から回復するためには酒を飲まないことと、自分の人間としての在り方を生涯考え続けるという、共通した方法をとらなくてはならないからである。

新しい会員に比べて数倍、数十倍の断酒歴のある会員でも、長い断酒生活の中で断酒に取組む姿勢が消極的になると、人間的な成長も止まり、あるいは後退し、危険な状態になることもある。

一方、つい最近まで飲酒していても、再び真剣に断酒に取組むようになった会員は、ひたすら人間としての成長を続け、まったく不安を感じさせないのである。断酒会は社会一般の組織と違って、新しい、古いの比較で優劣の論じられない世界である。

〈中略〉

入院中の患者さんが出席しても、地域から直接参加しても、会員と同じ扱いを受ける。家族の場合も同様である。

断酒例会は常にオープンであるので、見学したい人はいつでも出席できる。医療、行政関係者、マスコミ、一般市民等の参加を拒まない。例会を通してわれわれを広く知ってもらいたいからである。情報を通してだけの知識には、われわれに対する誤解が多すぎるからである。

現代社会で自由平等思想が一番具体的に表現されているのが、われわれ酒害者によって持たれている断酒例会である。(指針と規範 P63～P70)



〈みんなの広場〉には会員家族のみなさんからの投稿を掲載しています。近況報告、趣味の披露、読書感想、映画・ビデオ鑑賞の印象、会へのご意見等々、発表形式は、散文、短歌、俳句、川柳、なんでも結構です。奮って応募して下さい(広報部)